

目的 家庭洗たくにおいて、つけ置き洗いや液体洗剤での塗布洗いは各種汚れの除去に効果的な手法であるが、この場合一部の染色衣料で変退色や移染の起きることがあり、事前にこれらがないことを確認しておく必要がある。そこで染料及び染色方法既知の試料について、洗たく方法の違いによる染色堅ろう度への影響及び試し方について検討した。

方法 染色布：反応染料36点、直接染料12点、分散染料10点。添付白布：綿、ポリエステル。洗剤：粉末合成洗剤、粉末合成洗剤+たん白質分解酵素又は酸素系漂白剤。液体合成洗剤。洗浄方法：粉末洗剤では標準濃度20°C 10分間の普通洗浄と6倍濃度40°C 1時間及び16時間のつけ置き洗浄。液体洗剤では標準濃度での普通洗浄と原液塗布1時間放置後普通洗浄を行った。処理後グレースケールにより、変退色と白布汚染を判定し、さらにその後水堅ろう度試験を行い同様に判定した。

結果 ・分散染料では洗浄方法の違いによる影響はみられず、変退色・汚染は起きない。
 ・反応染料では濃色試料については普通洗浄でも汚染を起こすものが一部みられ、これらは浸漬でも影響を受ける。液体洗剤の塗布による変退色・汚染の影響は少ない。
 ・直接染料では汚染よりも変退色への影響がやゝ大きい。
 ・含金属直接染料の中には酸素系漂白剤配合の洗剤で浸漬により変退色するものがある。
 ・含金属以外の染料では洗剤中に酵素又は漂白剤が入ってもこれらの影響はみられない。
 ・色落ちについては染色布に濃いめの洗剤液をつけ白布をあててもみ、色の移り具合により比較的簡単に試すことができる。